

第1回サイエンスカフェ茨城開催報告書

- 日時：** ① 令和元年 9月26日(木) 14:00~16:10
② 令和元年 10月17日(木) 14:00~16:05
- 場所：** ① 大洗地区 大洗わくわく科学館
② ひたちなか地区 ひたちなか商工会議所
- 演題：** 第1部〔講演〕
地球温暖化「いま」と「これから」
茨城県の気象変化・茨城県の21世紀の気候
第2部〔卓話〕
① パナマゲイシャコーヒーの話
—世界最高級のコーヒーを飲みましょう—
② 徳川慶喜15代将軍が飲んだコーヒー
- 講師：** 第1部 水戸地方気象台調査官 中村敏夫氏
第2部 ひたちなか商工会議所会頭 鈴木誉志男氏
- 参加者：** ① 参加者数24名(女性23名、男性1名)、年代 20代~70代
② 参加者数21名(女性16名、男性5名)、年代 30代~60代

配布資料：

- (1)〔講演関係〕案内パンフレット、地球温暖化「いま」と「これから」、茨城県の気候変化、茨城県の21世紀末の気候
- (2)〔卓話関係〕①COFFEE JOURNAL NO.71 ②茨城珈琲物語
- (3)〔事務関係〕サイエンスカフェ茨城アンケート用紙、日本原子力開発機構核燃料サイクル研究所の施設見学について(ご案内)

報告事項：

1. 開催挨拶；

司会の中村保雄氏からサイエンスカフェ茨城の開催趣旨の説明と講師の紹介があった。第1回の開催にあたり、田山東湖茨城支部代表から、大洗町では町民憲章で「原子の火を育て・・・」と謳われていること、地球温暖化に対する原子力の必要性と人材育成の大切さなどの挨拶があった。

2. 第1部〔講演〕講師；水戸地方気象台調査官 中村敏夫氏

演題に基づき、①地球温暖化、②気温の変化、③降水の変化、④地球温暖化への対策、⑤気象情報の利用、等の項目に従って講演があった。特に、IPCCによる地球温暖化評価報告書・協定の動き、地球規模の気象変化から地球温暖化は現実に行き始めていること、かつてない異常気象が現れていること、生態系や社会に影響が

現れていること、原因として人間活動が引き起こしていることなどが強調された。

日本の平均気温の変化では 1898 年の統計開始以来 1.21℃の割合で上昇し、水戸では 1.4℃の上昇となっている。21 世紀末の気候予測によると、水戸市では年平均気温が約 4℃上昇、猛暑日日数が年間約 30 日増加、熱帯夜日数が年間で約 60 日増加することなどの説明があった。

3. 第 2 部〔卓話〕ひたちなか商工会議所会頭 鈴木誉志男氏

第 1 回大洗地区の卓話に先立ち、茨城県内では原子力関連施設の停滞が続いており、電気料金の高騰により大きな打撃を受けていることなどの現状の紹介があった。

卓話の内容は、エチオピアのゲイシャ村で育てたパナマゲイシャ種を美味しく飲む秘訣や農園経営の苦労話を交えた話で参加者の興味を引いた。

第 1 回ひたちなか地区の卓話に先立ち、ひたちなか市商工会は原子力を支援していることなどの挨拶があった。卓話では、第 15 代将軍徳川慶喜及び慶喜の弟で最後の水戸藩主徳川昭武は、共にコーヒー愛好家であったこと、その系統の徳川家と鈴木家とのコーヒーにまつわる交流についての話があった。

卓話の途中、コーヒーに関する全国競技大会にて入賞したコーヒーソムリエの安優希嬢から美味しいコーヒーの抽出試飲サービスや豆の焙煎度合による抽出温度の工夫などの紹介があった。

最後に参加者の質問に応え、コーヒー栽培は地球温暖化と運命共同体にあり、栽培地域の温度上昇により、平均気温の低い高地で栽培せざるを得ず、諸経費の上昇を招いているとの話があった。

アンケート結果

主な結果は、

- ・参加者数 24 名（男性 1 名、女性 23 名）、年齢 10 歳代～70 歳代、回収数 22 名
- ・講演はよく理解できた（14%）＋理解できた（55%）＝理解度（69%）
- ・卓話はよく理解できた（32%）＋理解できた（41%）＝理解度（73%）
- ・講演と卓話の時間の長さは概ね適切。

⇒別紙 参照

企画者の感想：

第 1 部の講演は、「地球温暖化」とし、地元の水戸地方気象台調査官による過去の観測データに基づく現状分析や将来予測までの専門的な内容であった。参加者は、茨城の 21 世紀末の気象状況が宮崎並みとなり、農業や漁業へ影響するという予測や、大型化した台風の現状とその原因に真剣に耳を傾けていた。このように身近な生活に関係する話題には十分興味を抱くという姿が印象的であった。

第 2 部の卓話では、コロンビアに開設した農園の経営者である鈴木誉志男氏に講師を依頼した。鈴木氏はその経験を通し、温暖化問題、エネルギー問題、原子力利

用、核のごみ問題に対するよき理解者であり、原子力やエネルギー環境問題の専門家でない鈴木氏からのメッセージは、原子力とは全く無縁であった一般の方々へは、実に説得力があり、今後も鈴木氏の貢献が大いに期待されると思った。

本「サイエンスカフェ茨城」の目的は、参加者との絆（信頼関係）を深め、今後の理解活動に協力支援して頂くことである。今回の参加者は、主に地域で積極的に活動されている「商工会議所」や「交通安全母の会」のメンバーなどであり、彼らの影響力は、これからの活動に期待できそうである。

このように知名度が高く人脈の豊富な地域の名士の協力を得て本活動を展開することは、地層処分の理解を広めていく上で極めて重要であると考えられる。実際には鈴木氏の卓話に期待し、本講演会に参加する方が多いといっても過言ではなく、本企画の目的である、一般市民にエネルギーや地層処分に関心をもって頂く契機になっていると実感した。

【開催の様子】（写真等貼り付け欄）

大洗地区



大洗わくわく科学館の講演風景（1）



大洗わくわく科学館の講演風景（2）



鈴木誉志男氏の卓話



コーヒーの準備風景

ひたちなか地区



ひたちなか商工会議所会議室におけるサイエンスカフェの風景

以上